

意図されざる布教

1930年11月28日(ニューヨーク)

(グルジェフ『生はく私が在る>ときにのみリアルである』抜粋)

この災難[自動車事故]ののち、ようやくだんだんに自分のいつもの統括力と記憶力が戻ってくると、すでに私の著作の第一集の最終章に描写したような理由から、私は「学院の趣意」としてまとめた新しい原則に従って[フランスに]設立しなおした学院の主部門および他の諸部門の清算に取り掛かったのだが、こうなるといよいよ、私の教え[*]をめぐるありとあらゆる誤解が盛大に花開くための格別に肥沃な土壌が整えられていった。

[*: my ideas” - グルジェフにとって半母国語であるギリシャ語の語源に遡るならば、「私が見るに至ったもの」を意味する。「アイデア」とするには語弊があるため、便宜上、「私の教え」と言い換えている。]

[ロシアに始まりフランスで終わった]私の学院には「存在と理解力」の度合いにおいて千差万別の者たちがいた。彼らの多くは、かつてロシア帝国の一部を成していた独立した国々の出身であり、彼らは母国に帰ろうにも帰れない。それらの地域では、数年前に始まった集団的な狂気がいまだに続いていたからである。そこで彼らは、この予期せざる状況のなか、ヨーロッパの大陸諸国やイギリスなど、いろいろな国へと散らばっていくしかなかった。これはどこに友人や親戚がいるかによりけりで、なかにはアメリカに行った者たちもいる。そして、かつては豊かな国であったロシアからの「難民」たちのほとんどがいまだに苦境にあることを見ても想像できるとおり、私の学院の元生徒である彼らの多くも、こうして離散していった後、過酷な状況に直面したのであり、現地でもふつうに生計を立てるための手段を持たない彼らは、たぶんそのとき突然、自分たちが学院で教わったことのすべてのうちパン屑に相当するぐらいのことを思い出し、この際どちらでもよいことだが意識的あるいは無意識的に、世界大戦から生じた人心の不安定に乗じるかたちで、私のもたらした目新しい教えを広める「預言者」を演じるようになった。

私が設立した学院の生徒たちはみな、そのときまだ、各自の「主体としてのありかた」において、前述したエクソテリック・グループの域に留まっていた。言い換えるなら、その存在(being)においてありふれた人間と変わることなく、現代人に特有の数々の傾向にいまだどっぷりと漬かっていた。そのやむをえない結果のひとつとして、彼らは、自分が新しく受け取ったもののうち、自分の元からの性格に合致するものにしか興味を持たない。そして、そうしたもののしか吸収できず、それをすべての重心として物事を考えてしまう。したがって彼らは、かつて私から教わったこと、あるいは将来における私の教えの広範な伝達に向けて私が準備を整えさせていた古い生徒たちから教わったことのうち彼らが断片的に吸収したこと、つまり「あれこれについてちょっとだけ聞きかじっていることの寄せ集め」を、前述したような「人心の不安定」の被害者となった人々のただなかで、講義や著述をもって広めたしたのである。

愉快的ことに、この時期、この私の存在はほとんど忘れられ、私の厳しさを多少なりとも知っているはずの彼らも私を「気にする」ことはほとんどなくなっていた。

[彼らの影響を受けて]私の教えの追究者となった者たちが呈する精神的な異常性の起源を探るために最近に行った特別な観察を通じて私は数々の具体的な事実を知るに至ったのだが、ここではとりあえず、次のようなことを言っておけばよいだろう。なんらかのかたちで私の教えの追究者となった者たちは、いまではたくさんの国々に散らばっているのだが、おもに周辺からの数々の影響のもとで人の内側に結晶化され、精神の働きに関与するようになる各種の素材の集合体は、いったんそれが形成された後には、各人を刺激して各人特有の反応を自動的に引き出すところの要因となる。したがって、自動的な連想の流れに乗っておしゃべりをしたり、半意識的な状態でお互いに意見を交わしたりしながら、彼らは、会話の興奮を維持したいという気持ちから、ときにはまったくつまらない情報のかけらを固定観念に変え、それを本気で信じ込み、夢中になってしまう。しかし、じつのところ、そのような情報は、私の教えが扱っている数々の問題のひとつについて何らかの知識を提供するだけであり、それらすべての問題に目を向けないことには私の教えの本質を知ることはできない。

その結果、たとえばロシアの特定の地域の者たちの場合、彼らの「いわゆる意識」には、与えられた情報のすべてのなかから、彼らが「ちょっとだけ聞きかじった」ものの断片として、私の教えの特定の部分だけが堅固に結晶化され、私の教えに関する彼らのおおまかな理解のすべての土台として扱われるようになった。ちなみにこれは、私の教えのうち、寓話的なたとえをもって、他のいろいろなことに加えて、人間はじつのところ、独立して形成されて独立して教育される三つの部分から構成されているのだということを理論的に説明した部分である。ロシアの別の地域の者たちの場合、彼らの大多数は、実証を伴って提供されたある説明からの知識の断片を根拠として、自己完成に向けて意図的に取り組んだことのない人間は魂[soul]のみか精神[spirit]まで欠いているという考えを自分たちの意識に結晶化させるに至った。

ドイツ人たち、とくにバヴァリア地方の出身者たちは、ふつうの食物のほか空気をを用いることでみずからの成長を増進させる可能性を与えられているということを聞いたせいで、緊急時における肉体からの需要のすべてに備えたうえで内部にアストラル体を結晶化させ、それを完成に導くことができるような特質を自分たちの血液に運びさせるという考えに「夢中」になった。

イギリスの首都に暮らす者たちの場合、これがいわば「イングリッシュ魂」[*]にぐっときたと見えて、私の提示した理論体系を要約する例の言葉、つまり必要に迫られて私も使わざるをえなかった「自己想起」という言葉に「クレージー」になり、これを自分たちの固定観念とするに至った。

[* : English soul - 英米人は魂(soul)と足の裏(sole)の区別を知らない、その証拠に英語でこのふたつをあらわす単語は互いにそっくりだというジョークに引っ掛けてある。]

現代のギリシャの北部に暮らす者たちの場合、彼らは「七の法則」や「あらゆる現象の三つの相」をめぐる理論に飛びつき、これが私の教えに対する彼らの興味の重心となった。

さて、あなたがたアメリカ人、まさにこのグループに加わっているあなたがたの場合、先に述べたように合わせて二十四の分野を包括し、私の教えの根本を成している独自の理論体系の全体のうち、これも

また「ちょっとだけ聞きかじった」ことの断片をいくつか組み合わせたものをもって、自分たちの固定観念とされている。そしてこの固定観念は、私の教えのうち先ほど話題にした部分、つまり自分自身を相手にした取り組みを始めるにあたってだれもが知っておくべきこととして「自己観察」について説いた部分をめぐるものなのである。